

(A01-1) 重力変化を含む力学的ストレスに対する
メカノセンシング機構

研究代表者 成瀬恵治

森松 賢順

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科

平成 29 年 2 月 6 日 (月) ~ 平成 29 年 2 月 18 日 (日)

平成 29 年 2 月 6 日から平成 29 年 2 月 18 日の間、「宇宙に生きる」国際活動支援班海外派遣の支援の下、米国 Stanford University での研究打ち合わせ並びに、61st Annual Meeting of the Biophysical Society での本研究プロジェクトに掛かる研究内容の発表と情報交換を実施いたしました。本報告書内にて、派遣での実施状況の報告を行う。

2/6 は、米国シリコンバレーにある B-Bridge international, Inc.社での研究打ち合わせを実施した。打ち合わせには、米国での研究推進方法や知財関係について主にご教授賜り、本研究プロジェクトで産出される技術の特許申請等について検討する機会を頂いた。また、2/7~10, 16 においては、米国 Stanford University, Chemical Engineering にて、共同研究者でかつ報告者の前 Principal Investigator である Alexander Dunn 並びに、他の Faculty member と本プロジェクトに関わる議論と重力負荷顕微鏡の構築への助言を頂いた(写真 1)。また、重力負荷顕微鏡において、重力によるステージのドリフトが問題となるが、Stanford University 滞在中、彼らの助言を元に構築したシステムによって、このドリフト問題を極力抑えることが可能となった。さらには、2/11~15 においては、ニューオーリンズで開催された 61st Annual Meeting of the Biophysical Society にて本研究プロジェクトに係るポスター発表と情報収集を実施した(写真 2, 3)。研究発表では、多くの研究者が本研究プロジェクトに興味を持ち、本研究プロジェクトの重要性を再認識した。また、NASA の支援の下、微小重力顕微鏡の開発に携わる研究者達と意見交換ならびにネットワークの構築ができ、本研究プロジェクトの今後の進捗に重要となると考える。

今回、海外での研究推進の機会を与您いただき、国際活動支援班の皆様感謝したい。また、今後も本研究プロジェクトの完遂に向けて研究を進めていきたいと考える。

